

## 第31期放射線安全取扱部会 支部長，委員長ご挨拶

### 北海道支部長に就任して

久保 直樹

北海道支部長を拝命いたしました北海道大学安全衛生本部の久保直樹と申します。

北海道支部委員の方々は、北海道医療大学薬学部生命物理科学講座（放射薬品化学）の北浦廣剛氏、北海道電力(株)の北野尚弘氏、酪農学園大学獣医学部群獣医学類 獣医放射線生物学ユニットの華園究氏、北海道大学アイソトープ総合センターの吉井勇治氏の以上4先生になります。前任の遠藤大二氏（酪農学園大学）、久下裕司氏（北海道大学）の2先生方が抜けたのは大きな痛手ですが、しかし幸いにも両先生におきましては今後も御協力いただけるようであり心から御礼申し上げます。大内健司氏（北海道電力(株)）におかれましてはご貢献の後、任期途中で交代されております。

今年度は感染症対策のため、春の教育訓練講習会・委員会が延期となり、急遽北海道支部委員の先生方へ私から今後の活動等に関してメールを差し上げました。突然のメールにも関わらず、適切な御意見を返信くださり、とても感謝しております。そこでは計画中であった見学会の延期や、主任者試験の解答解説に関して希望する担当分野の打合せ、そして北海道で開催予定の放射線安全取扱部会年次大会についても熱い思いをお聞きすることができました。また所属されている機関におきましても出張を控えるようになっていること、そしてリモート会議に使用できるweb会議システムに関して施設によっては制約があること等様々な貴重な情報を積極的にお知らせくださり適切な支部委員会の運営に貢献されました。このような能力をお持ちの各支部委員の先生方ですので将来にわたって活躍されるかと存じます。

それでは皆様におかれましてはこれからも御指

導、御鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

(北海道大学安全衛生本部)

### 東北支部長に就任して

宍戸 文男

このたび、渡部浩司第30期東北支部長(東北大学)の後任として、第31期東北支部長を拝命いたしました東北放射線科学センターの宍戸文男です。

第31期は、再任の鈴木俊幸委員（福島県立医科大学）、浅沼研委員（秋田大学）、の両氏に加え、山本文彦委員（東北医科薬科大学）、日尾彰宏委員（東北大学）、比嘉剛志委員（東北大学）の3名の新委員を迎え、計6名の体制で活動していきたいと考えています。

年度開始早々の新型コロナウイルス感染症の騒動で、出端を挫かれた感はありますが、まず、例年の活動ペースを取り戻し、支部活動を更に活発化していきたいと考えておりますが、部会員の参加と協力が不可欠です。第30期を上回る、ご指導とご支援をよろしくお願いいたします。

(東北放射線科学センター)

### 関東支部長に就任して

桧垣 正吾

第31期の関東支部長を仰せつかりました東京大学の桧垣です。前任の井上浩義支部長をはじめとする歴代の先生方に比べ、経験も人脈も足りていない未熟者ですが、精一杯務める所存です。

さて、新型コロナウイルス感染症の拡大は、我が国にとって戦後最大の危機的状況でした。しかし、

これまでの慣習を改め、post-coronaの新しい時代を創造していくチャンスでもあります。with-coronaとなる今期の活動では、新しい時代の放射線管理はどうあるべきか、どう工夫できるか、が大きな課題になろうと思います。関東支部でも、対面での教育訓練講習会は開催できませんでしたが、オンラインによる事業所内講習会や、支部委員が中心となりコンテンツを作成した教育訓練E-learningの提供等、新たな試みが始まったところです。

また、現在、原子力規制庁では、RI法に係る審査・検査のガイドラインの作成が進められています。その中で、意見聴取として我々現場の主任者の職能団体である部会から意見を上げる機会があります。RI法では、主任者の裁量が認められている部分も多くあります。法令遵守は当然ですが、過度な規制や負担が強いられないようにしなければなりません。部会としてまとめた意見を上げることで届きやすくなりますので、web等で動向を注視していただき、適時にお寄せください。

支部委員ですが、3期目の溝口真樹氏（(株)日立製作所）、八木直樹氏（日本製鉄(株)）、2期目の小野孝二氏（東京医療保健大学）、梶井重男氏（武田薬品工業(株)）、小池裕也氏（明治大学）、田辺恵美子氏（日本大学）、福原幸規氏（東京女子医科大学）に加え、新たに秋山和彦氏（東京都立大学）、勝田昭一氏（国立がん研究センター）、鈴木朗史氏（長瀬ランダウア(株)）、廣田昌大氏（信州大学）の4氏に参加いただきました。研究系、医療系、企業の業種のバランスが取れた布陣です。どうぞよろしくお願いいたします。

（東京大学アイソトープ総合センター）

## 中部支部長に就任して

原 正憲

矢永誠人前支部長（静岡大学）の後任として、第31期の中部支部長を務めさせていただく富山大学の原正憲です。初めての事ですので、至らない事が多々あると思います。支部委員の方々のお力を得て支部活動を進めていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

今期中部支部の委員を紹介いたします。前期か

らの継続であります小関弘智氏（愛知医科大学病院）、立松憲次郎氏（岐阜薬科大学）、横山明彦氏（金沢大学）が今期も支部活動を支えてくださいます。今期より大矢恭久氏（静岡大学）、近藤真理氏（名古屋大学）、澤 慎一郎氏（(株)日立製作所）、山下英二氏（東名古屋画像診断クリニック）の4名が新たなメンバーとして参加していただきます。私を含めて8名で中部支部を運営してまいります。

中部支部の定例の活動は、春の教育訓練講習会と秋の支部研修会又は施設見学会、及び放射線取扱主任者試験の解答例と解説の作成です。放射線取扱主任者試験の受験者の方は、将来の主任者であり、私たちの仲間となってくれる方です。受験者の方に役立つ分かりやすい解答例と解説の作成に取り組んでいきます。

昨年度より続く新型コロナウイルスの影響で、例年5月に行われている春の教育訓練講習会が延期となっております。教育訓練の受講は放射線取扱業務に従事する者にとって、放射線とその安全取扱に対して理解を深める重要な機会です。早期に、放射線取扱業務に従事される方へ教育訓練の機会を提供できればと考えております。先が見通せない中での活動となります。例年以上に皆様のご協力とご支援をいただければと思います。よろしく願いいたします。

（富山大学 学術研究部理学系）

## 近畿支部長に就任して

佐々木 将博

このたび、角山雄一前支部長（京都大学）の後任として、第31期の近畿支部長を仰せつかりました神戸市立医療センター中央市民病院の佐々木です。

第31期は佐々木将博（神戸中央市民病院）、中屋敷勇輔（(株)日本環境調査研究所）、竹村貴志（ポニー工業(株)）、角山雄一（京都大学RIセンター）、古屋敷守（医療法人仁泉会MIクリニック）、吉岡潤子（大阪大学大学院工学研究科）、田中正行（(株)千代田テクノル）、成末泰岳（(株)コーガアイソトープ）の再任委員に稲垣昌代（近畿大学原子力研究所）、井原勇人（和歌山県立医科大学）の2名の新任委員を迎えました。井原委員は和歌山県から初の参加です。稲垣委員は27期からの復活をお願いしました。



今年度早々に COVID-19 禍の影響でいろいろな予定が中止になり、6月の時点では全員が揃って顔を合わせる機会がありませんが、これまでの支部行事や年次大会等で直接間接に既に顔見知りの仲間です。近畿支部は各委員を見ていただくとお分かりかと思いますが、大学から企業、核物理から医療、若者から老人、大都会のオフィスから自然に囲まれた田舎まで、とにかく「多様性」に富んでいるのが特徴で支部の伝統として脈々と引き継がれています。近畿支部は関東支部に次ぐ大所帯ですので、多様性と持続性と機動性を活かした活動を続けていきたいと思っています。角山前支部長から始まりまして、近隣支部との交流の輪もどんどん広げていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

(神戸市立医療センター中央市民病院)

### 中国・四国支部長に就任して

寺東 宏明

この度、花房直志前支部長の後を受けて、第31期の中国・四国支部長を拝命した岡山大学の寺東宏明です。2年間よろしく願います。はじめに、昨年度、中国・四国支部で開催担当させていただきました放射線取扱部会年次大会（令和元年10月24・25日、倉敷芸文館）につきまして、会員の皆様のご協力により無事実施できましたことをご報告させていただきます。参加いただいた会員の皆様、また、開催にご協力いただいた関係各位に感謝いたします。

さて、私は平成30年度に岡山大学自然生命科学研究支援センターの光・放射線情報解析部門長として着任し、現在に至ります。協会には十数年所属し



写真 上段 寺東, 坂口, 都留  
下段 西本, 前田, 松嶋 各委員

ておりましたが、永く協会実務に携わってきた前支部長と違い、支部活動等にもほとんど関わってきませんでした。皆様のご指導とご協力をお願いいたします。

第31期の支部委員は、再任の坂口修一氏（山口大学）、都留忍氏（高知大学）、西本一幸氏（香川大学）、前田志津子氏（広島国際大学）に加え、任期満了となった稲田晋宣氏（広島大学）の後任として松嶋亮人氏（広島大学）を新委員として迎え、同様に新任の私を含め計6名の体制で活動していきます。中国・四国支部は広い地域にわたり、また、集まるには交通の便が良いとはいえない環境ではありますが、伝統的にまとまりの良い支部で、今期の支部委員の多くは、支部実務を永く務められており、新任の私には頼もしく感じます。

中国・四国支部の定例の活動は、春の教育訓練講習会と秋の支部研修会、並びに放射線取扱主任者試験の解答例の作成です。春の教育訓練講習会は、新型コロナウイルスの流行により延期となり、現状では開催日程が見通せませんが、このような状況下、中国・四国地区の会員へのサポートができればと考えています。現在、各支部委員間で各地域の状況を共有し、何ができるかを検討しているところです。今年度は前述の状況により、支部委員会も開催することができておらず、支部研修会等の企画もまだこれからですが、なにか良いものと考えていきたいと思っています。今年度の中国・四国支部の活動にご期待下さい。

(岡山大学自然生命科学研究支援センター)

## 九州支部長に振り返り

杉原 真司

第28期、第29期、1期休んで第31期九州支部長に振り返りました(咲けるのか?)。休み期間中は、所属RI施設の廃止措置に専念し、明けて年次大会かと思いきや、世界的な新たな難題に直面した状況でこの原稿を書いています。恒例の教育訓練は延期(のちE-learningに)となり支部委員会も開けず(引継ぎもまだ)、懸案の年次大会も延期となりました。このような事態の中でも、若手の支部委員を迎え、少々遅れて始動しています。

今期の支部委員構成は、産業医科大学の阿部利明氏(留任)、(株)千代田テクノルの北川修嗣氏(留任)、鹿児島大学の尾上昌平氏(新任)、熊本大学の白石善興氏(新任)、長崎大学の山内基弘氏(新任)となっています。新任の3名とは、ジェネレーションギャップがありますが、従前から九州支部で展開していた「次世代主任者育成プロジェクト」に絡んで、知識、経験、技術の伝承ができれば、九州支部の未来も見てきそうです。

今年度の支部の活動は、年次大会が延期になったことから、従前の研修会等の開催が考えられますが、会合の開催の可否も見通せないことから、オンライン会議を利用しつつ、来年の年次大会開催に向け、



上段左から杉原, 阿部  
中段左から山内, 白石, 北川  
下段 尾上

九州・沖縄内の人材開拓(ネットワーク)、情報収集・発信に努め、開催準備を進める所存です。その成果を、来年の年次大会のシンポジウムとして紹介できればと思います。年次大会の開催を通して、九州支部内の結束を図り、放射線安全管理に寄与する幅広い活動を展開して、有望な新人にバトンタッチすべく、これから、2年間、尽力していきますので皆様よろしくお願いいたします。

晴れて、年次大会が九州で開催された折は、皆様ごぞって九州に集まり、語り合ひましょう。

(九州大学アイソトープ統合安全管理センター)

## 企画専門委員長を拝命して

馬田 敏幸

令和2年4月より企画専門委員長に就任いたしました。委員としてのこの4年間は、中島覚先生(広島大学)、松田尚樹先生(長崎大学)両委員長の下、大変中身の濃い充実した委員会活動を経験することができました。企画専門委員会は安全取扱部会の屋台骨であることを実感した次第です。前期から申し送りの知識伝承企画を継続すると共に、新たな企画を提案していきます。また、「放射線取扱施設における安全管理技術の継承」と「PET施設管理研究会」の2つの分科会に加えて、今年度は新たに「全国のRI施設一覧作成分科会」が立ち上がりましたので、委員会として協力していきます。

今期の委員をご紹介します。前期に引き続き、和田真由美氏(福井大学)、池田岳紘氏(北里大学)、北実氏(鳥取大学)。今期より、安井博宣氏(北海道大学)、渡部浩司氏(東北大学)、山本由美氏(東北医科薬科大学)、小山由起子氏(滋賀医科大学)、稲田晋宣氏(広島大学)が委員に加わっていただきました。ベテランから若手までのバランスのとれたメンバーとなっております。どうぞよろしくお願いいたします。

今年は新型コロナウイルス感染症の蔓延で、大変不自由な生活を強いられており、新しい生活様式の実践が求められています。それでもオンライン会議が可能な時代になっていたのが、不幸中の幸いでした。第1回目の委員会もオンライン会議が予定されております。1日も早く安全・安心に暮らせる日が

来ることを願いつつ、委員会の皆さんと有意義な時間を共有し、そして有益な企画に磨きをかけて、部会を盛り上げていきたいと思えます。部会員の皆様、2年間どうぞよろしくお願いいたします。

(産業医科大学アイソトープ研究センター)

### 広報専門委員長を拝命して

柴田 理尋

広報専門委員長を務めることになりました、名古屋大学アイソトープ総合センターの柴田です。どうぞよろしくお願いいたします。既に、前号でも(副部長として)ご挨拶いたしましたとおり、恥ずかしながら今まで広報をはじめ部会の活動もあまり経験がありません。経験豊かな委員及び会員の皆様の御指導を仰ぎ、微力ながらお役に立ちたい、等と思いつつ就任したとたん、今般の新型コロナウイルスによる誰も経験したことのない状況下で、管理や教育等判断に困ることが立て続けに発生しました。大学では、いったん施設の利用を停止したものの、テレワークのなかで必要な日常管理に何とか対応してきました。主任者の皆さんも様々な工夫でこの緊急事態に対処していることと思えます。少しずつ活動が再開しておりますが、原子力規制庁の検査ガイドへの対応、校正に関する法令改正等、利用者及び主任者として重要な案件が待ち構えています。当部会は、広い分野にわたる会員を有していますので、今回の緊急時対応についてはもちろんのこと、重要案件についても皆さんの意見を集約・共有し、また、他の学協会とも連携して意見を発信していけるような取組みを考えていきたいと思えます。緊急時も平時も、頼りになる安全管理・安全利用の専門家集団としての部会活動を益々活性化させるよう御協力をお願い申し上げます。

(名古屋大学アイソトープ総合センター)

### 法令検討専門委員長を拝命して

加藤 真介

第30期に務めていただいた江田正明前委員長(ゼリア新薬工業(株))の後任として、このたび法令検討専門委員会委員長を引き継ぐことになりました。前期では、知識と経験が豊富な江田委員長のご指導の下、法令改正に伴う予防規程の変更に關する解説作成と協会ホームページのQ&Aの見直し・充実に微力ながら参画させていただきました。素晴らしい成果を残された前期を引き継ぐ形となり、大変な重圧と不安を感じておりますが、見識の高い委員の方々のお力に支えられながら、全力で務めさせていただく所存でございます。よろしくお願いいたします。

今期の主な活動として、前期に引き続き年次大会の相談コーナーでの質問の一般化や想定Q&Aの検討、更にそれらの必要に応じたホームページの放射線管理Q&Aへの追加です。現場の様々な状況・問題を法的観点からどう解釈し、どう対応しなければならないかをアドバイスする大変難しい活動ではありますが、皆様の疑問・質問にできるだけ丁寧に応える体制を充実させていきたいと思えます。

またもう1つのミッションとして、定期講習テキスト(法令、事故の課目)のレビューを予定しております。当該講習の内容と使用するテキストは、ご担当される講師の方々のご検討の中で作り上げられておりますが、それらを第三者的な立場で評論させていただくことで受講者への有益な情報提供につながっていくものと考えております。

本委員会の発信する情報が、皆様の放射線安全管理活動において役立つものとなるよう尽力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

#### 【第31期委員】

加藤真介(横浜薬科大学)、飯塚裕幸(東京大学)、河内杉雄(富士フイルム富山化学(株))、佐々木徹(北里大学)、田中鐘信((国研)理化学研究所)、仁神鉄人(横河電機(株))

(横浜薬科大学)